２　大震災などの災害への備え

（１）備蓄や防災用具などの用意
（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
（３）備蓄量
（４）災害発生時の水や食料の確保
（５）家具類の転倒・落下・移動防止対策
（６）対策をしていない理由
（７）家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知
（８）大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

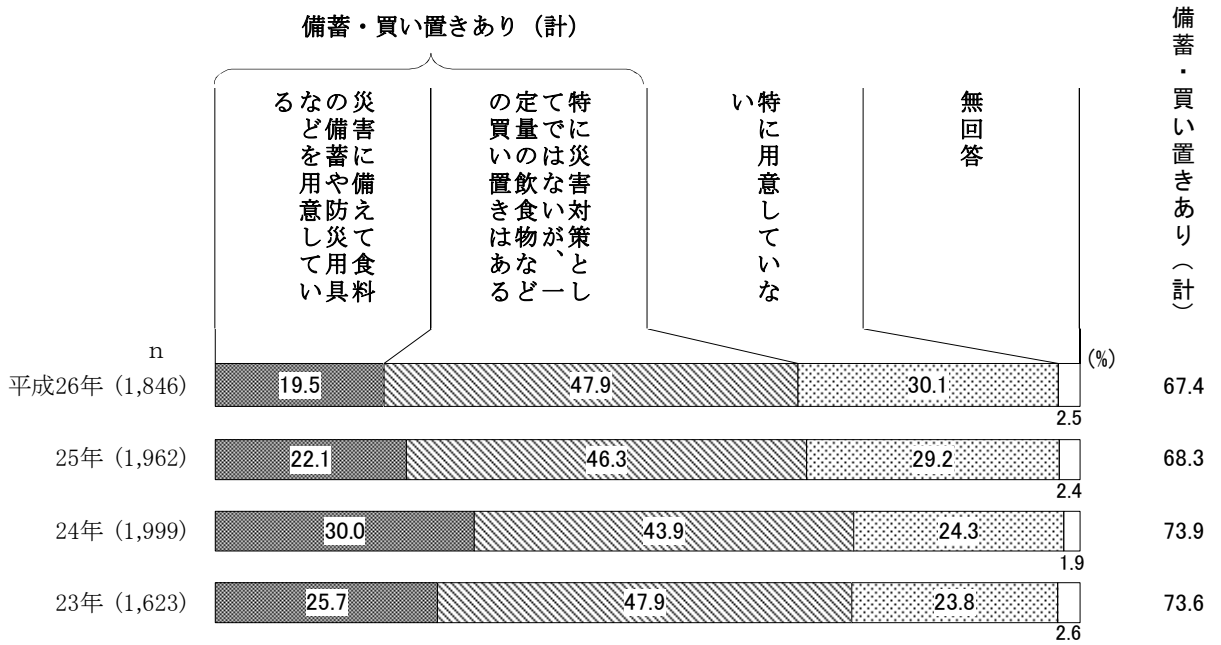
２．大震災などの災害への備え

（１）備蓄や防災用具などの用意

■ 備蓄をしていない方が３割で、徐々に増加

問５　あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。（○は１つだけ）

図２－１－１　経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が19.5%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.9%、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は67.4%となっている。一方、「特に用意していない」は30.1%となっている。

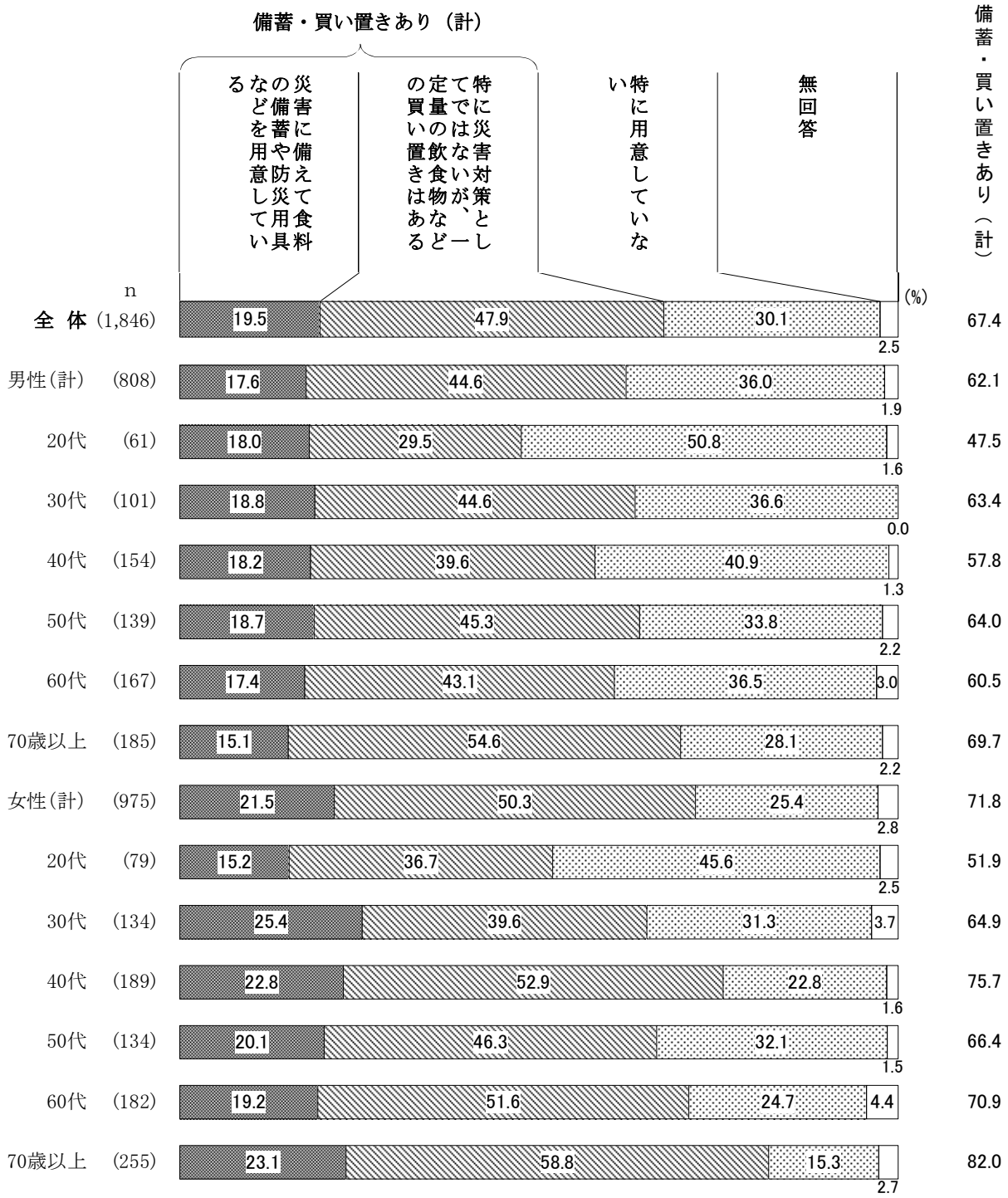
経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の22.1%から、今回19.5%と2.6ポイント微減している。一方、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は今回47.9%と、前回の46.3%より1.6ポイント微増している。

性別でみると、【備蓄・買い置きあり】は男性62.1％、女性71.8％と女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、30代、50代、60代、70歳以上で【備蓄・買い置きあり】が６割を超えて、他の年代より高くなっている。

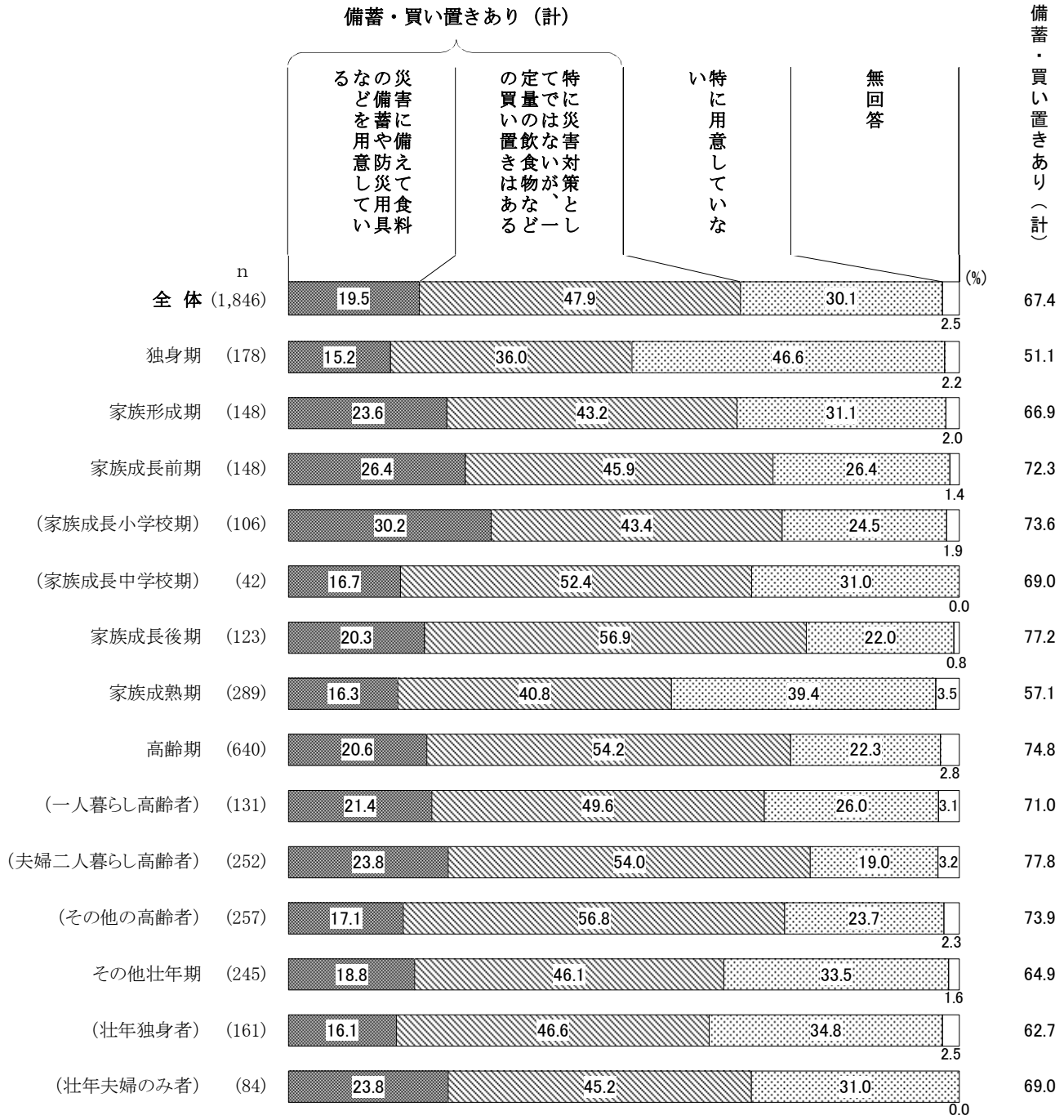
女性の場合、40代、60代、70歳以上で【備蓄・買い置きあり】が７割を超え、高くなっている。「特に用意していない」は男性20代で５割を超え、最も高くなっている。

図２－１－２　性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



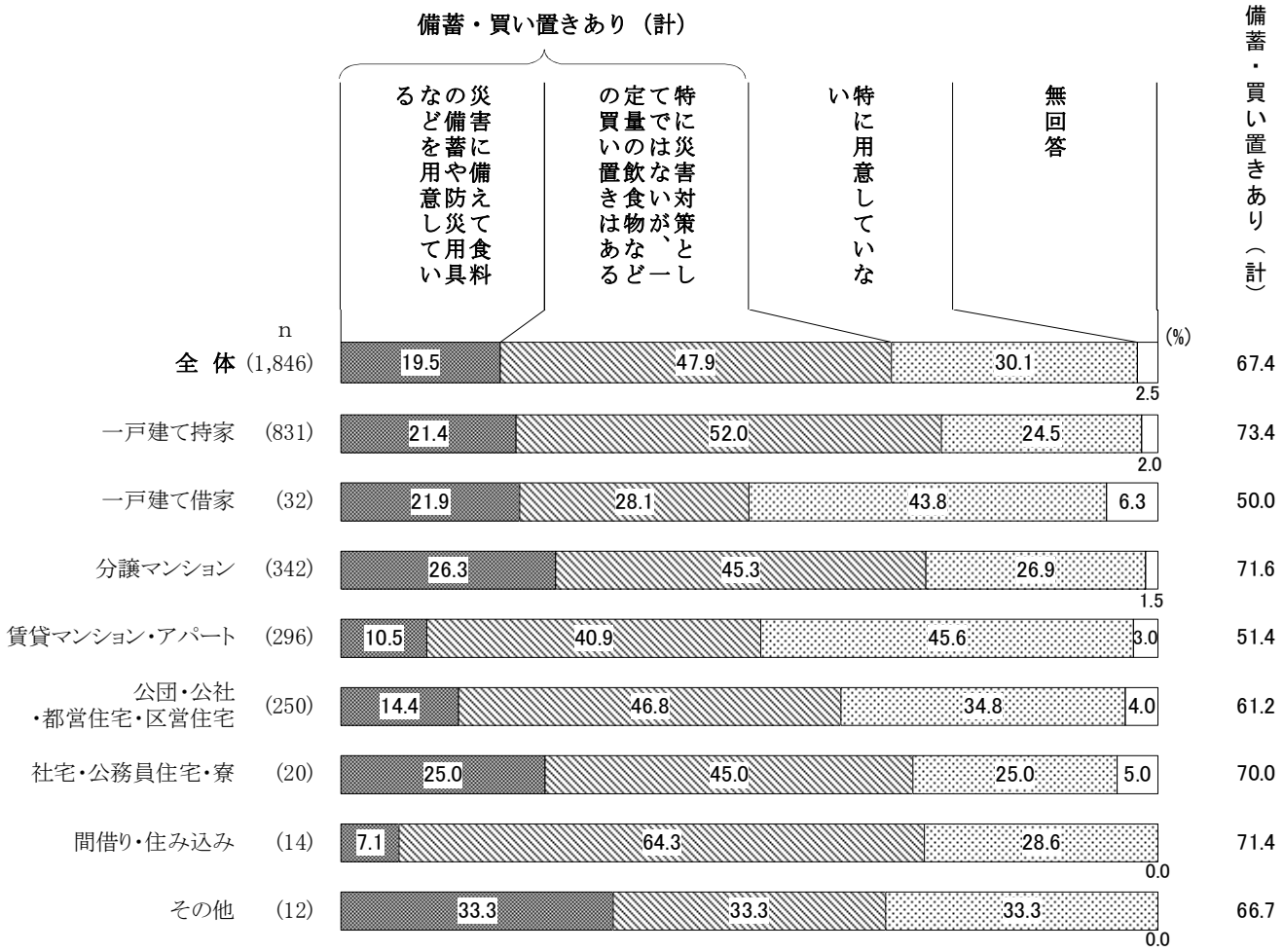
ライフステージ別でみると、【備蓄・買い置きあり】は高齢期、中でも夫婦二人暮らし高齢者で77.8％と高くなっている。一方、「特に用意していない」は独身期（46.6％）で４割を超え高くなっている。

図２－１－３　ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮、間借り・住み込みでは、【備蓄・買い置きあり】が、いずれも７割を超えている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ50.0%、51.4%と低くなっている。

図２－１－４　住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

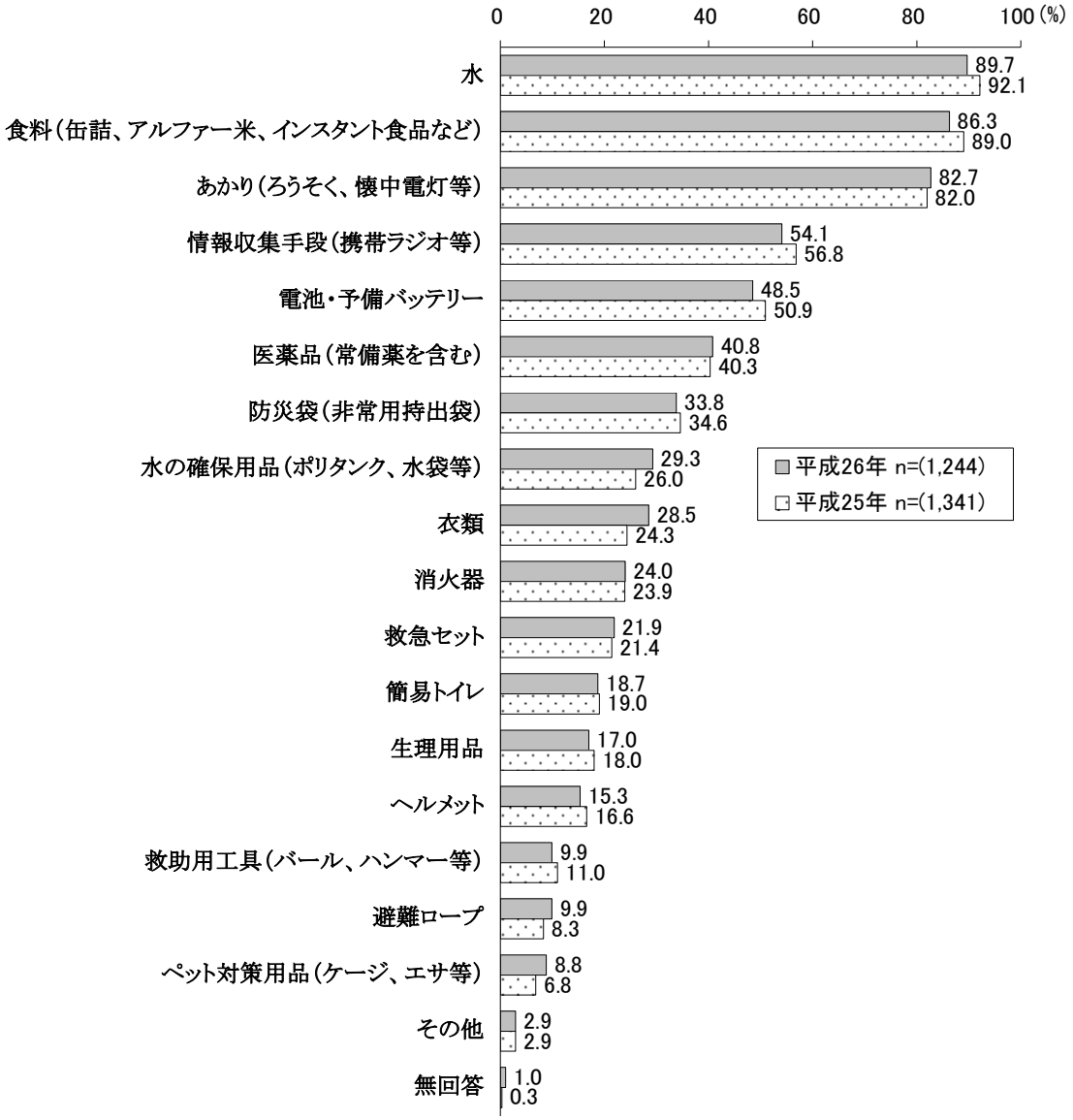


（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■　「水」「食料」「あかり」が８割台

問５で「１．災害に備えて～」、または「２．特に災害対策としてでは～」とお答えの方に
問５－１　備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。
（○はあてはまるものすべて）

図２－２－１　前回調査比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が89.7％で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」（86.3％）、「あかり（ろうそく、懐中電灯等）」（82.7％）の順となっている。

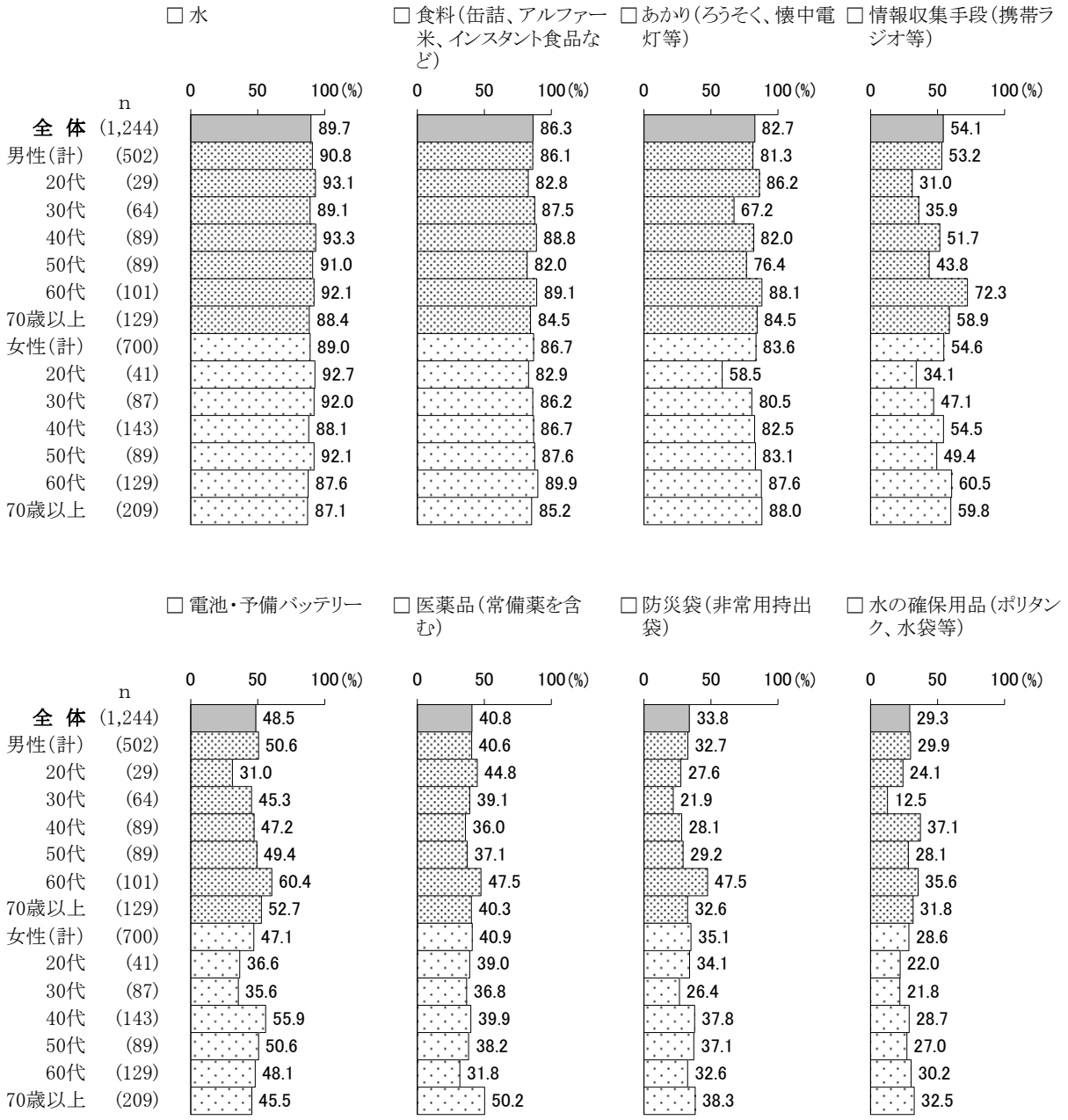
前回結果と比較しても、大きな差はみられない。

性別でみると、いずれの項目についても大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」は、男女とも各年代にわたって高くなっている。

また、「情報収集手段（携帯ラジオ等）」は、男性では60代で72.3％と高く、女性では60代、70歳以上で６割前後と高くなっている。

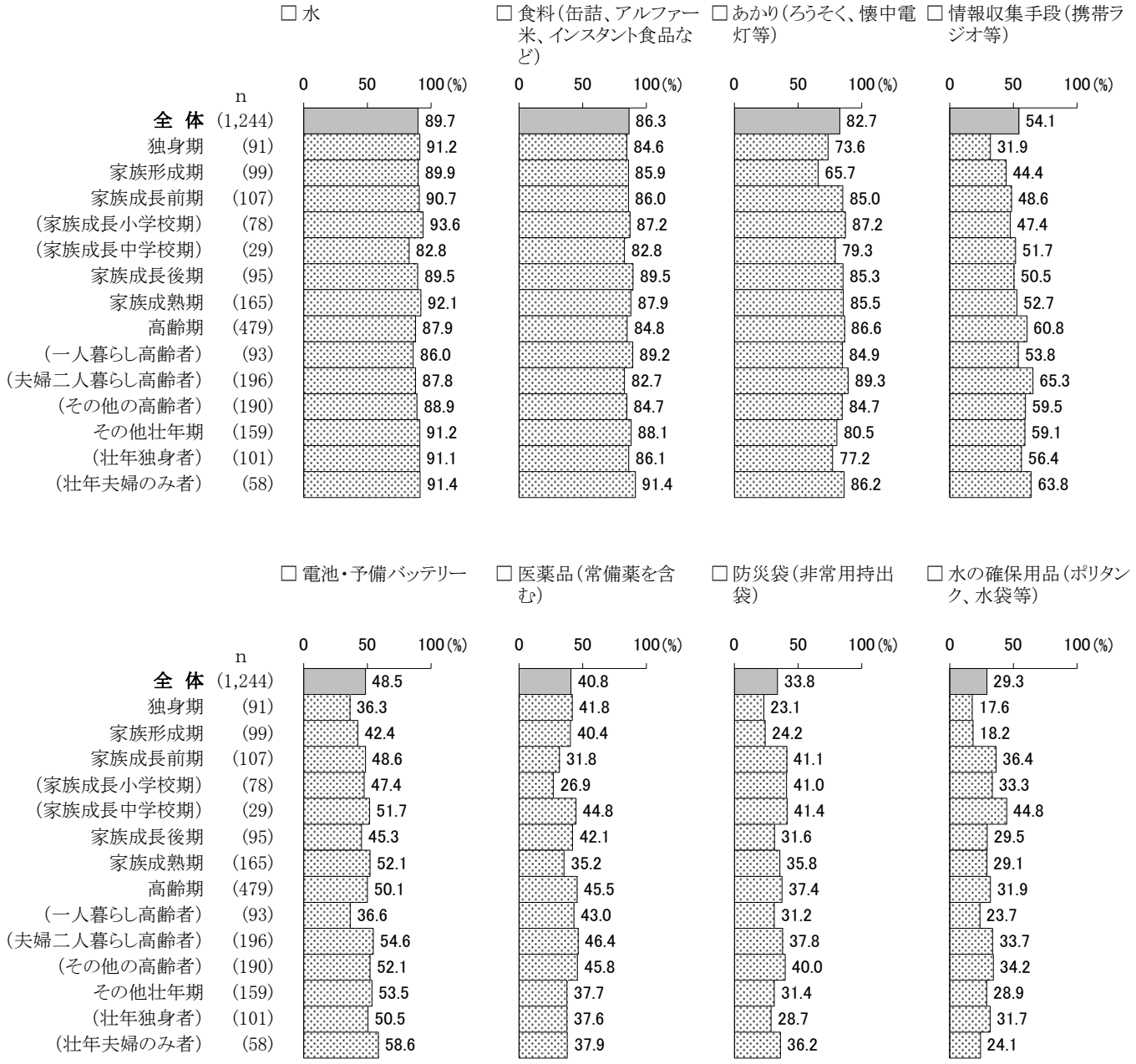
図２－２－２　性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位８項目



ライフステージ別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」は、各ステージを通じて高くなっている。

また、「情報収集手段（携帯ラジオ等）」については、ステージが進行するにつれて高くなる傾向がある。

図２－２－３　ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位８項目



（３）備蓄量

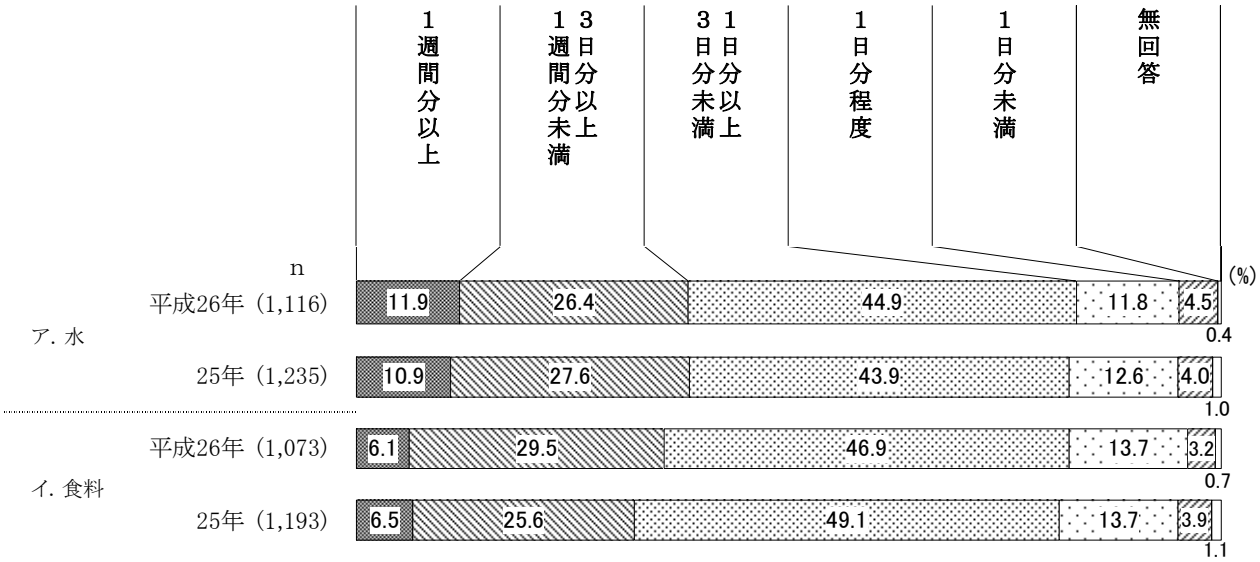
■　〈水〉〈食料〉とも「１日分以上３日分未満」の備蓄が多く、４割台

問５－１で「１．水」、または「２．食料」とお答えの方に

問５－１－１　あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

（○はそれぞれ１つずつ）

図２－３－１　前回調査比較／備蓄量



〈水〉〈食料〉を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については「１日分以上３日分未満」が44.9％で最も高く、次いで「３日分以上１週間分未満」（26.4％）となっている。

〈食料〉については、「１日分以上３日分未満」が46.9％で最も高く、次いで「３日分以上１週間分未満」（29.5％）となっている。

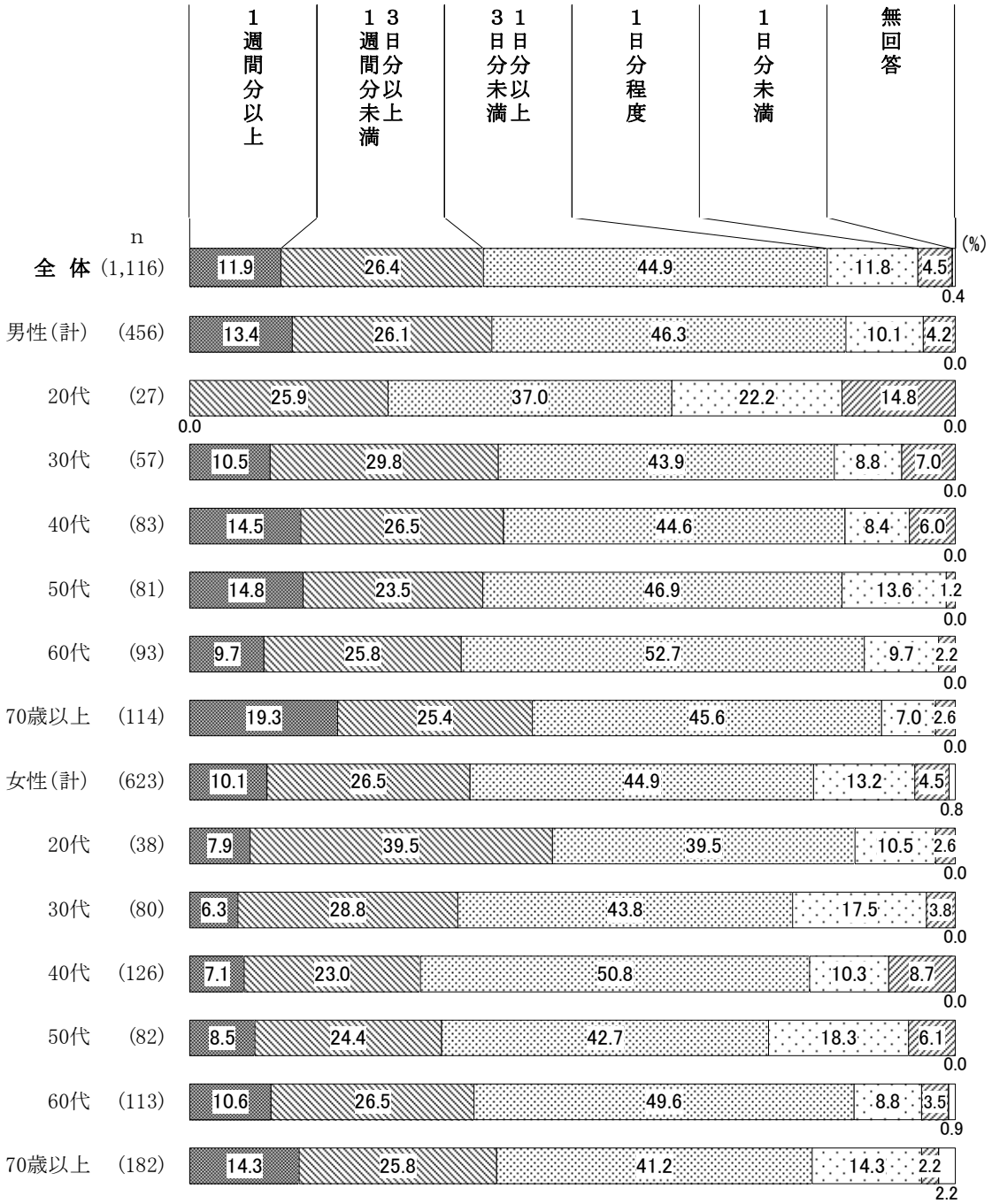
前回結果と比較すると、〈食料〉では「３日分以上１週間分未満」が25.6％から29.5％と、微増している。

水の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、全年代で「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」より高くなっている。

女性の場合、30代以上で「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」より高くなっているが、20代では「１日分以上３日分未満」（39.5％）と「３日分以上１週間分未満」（39.5％）で同じ数値となっている。

図２－３－２－①　性別、性・年代別／備蓄量／水

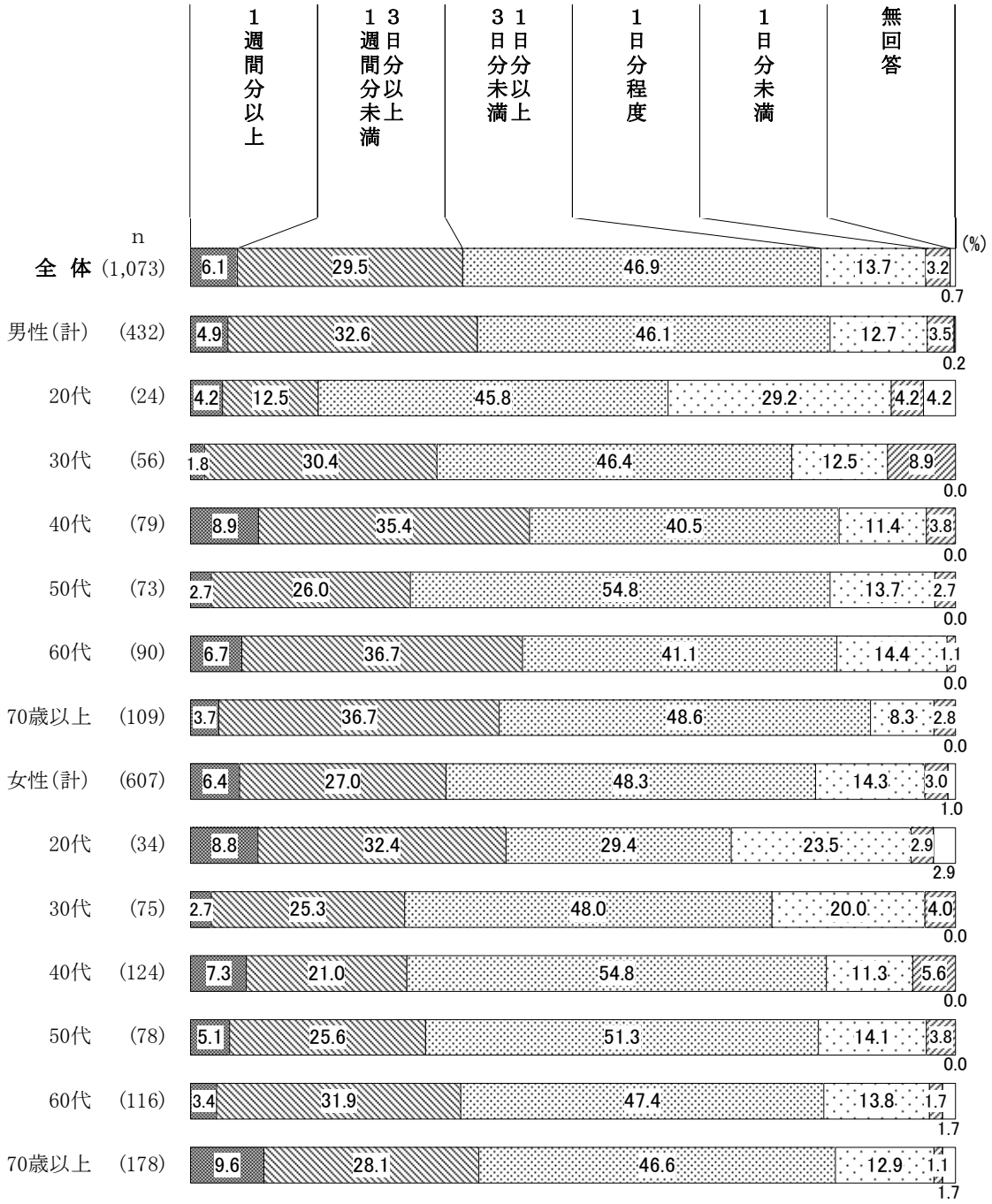


食料の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、いずれの年代でも「１日分以上３日分未満」が高くなっている。また、50代では「１日分以上３日分未満」が54.8％と、他の年代より高くなっている。

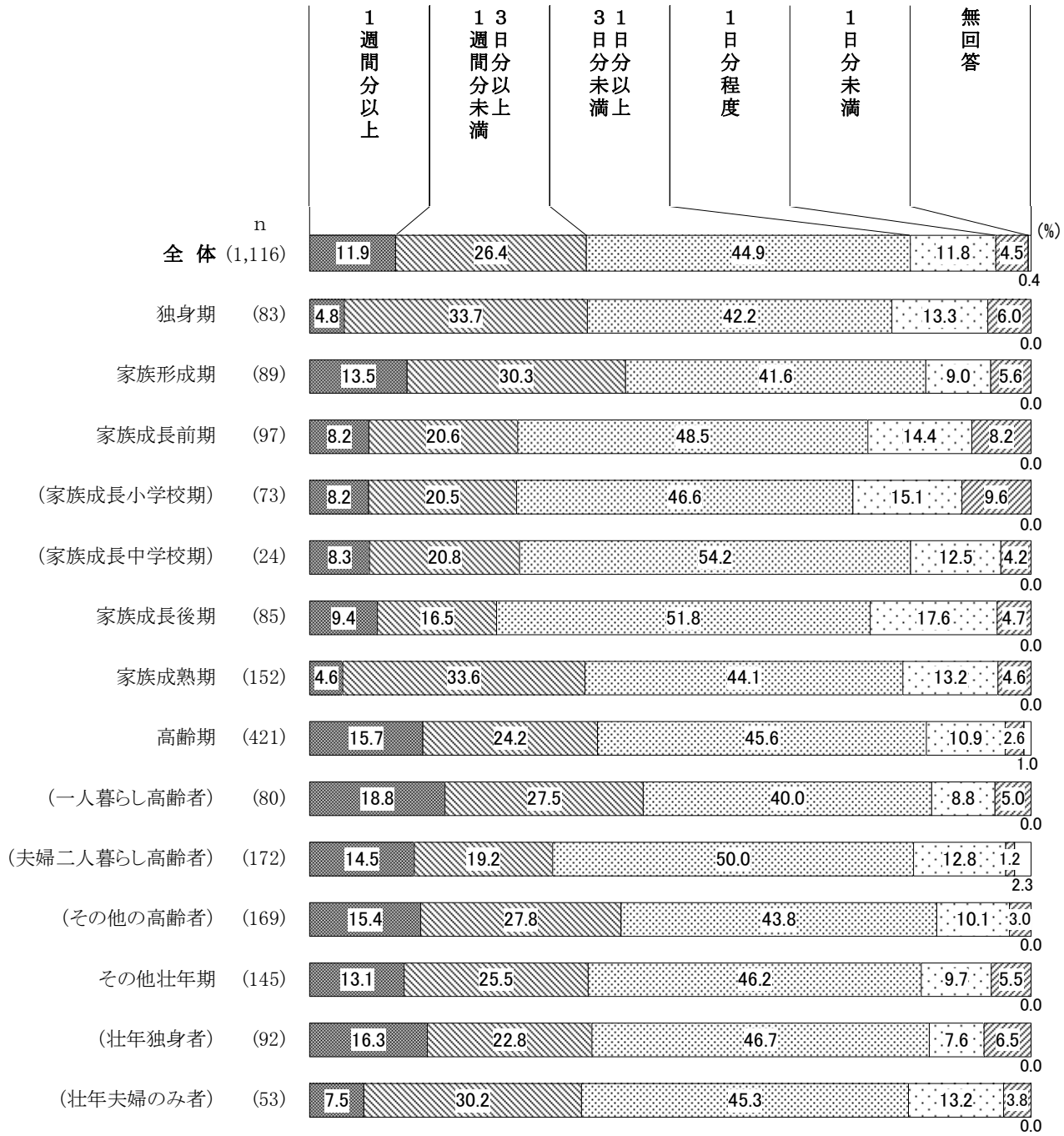
女性の場合、20代を除くと、いずれの年代でも「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」より高く、とくに40代では54.8％となっている。

図２－３－２－②　性別、性・年代別／備蓄量／食料



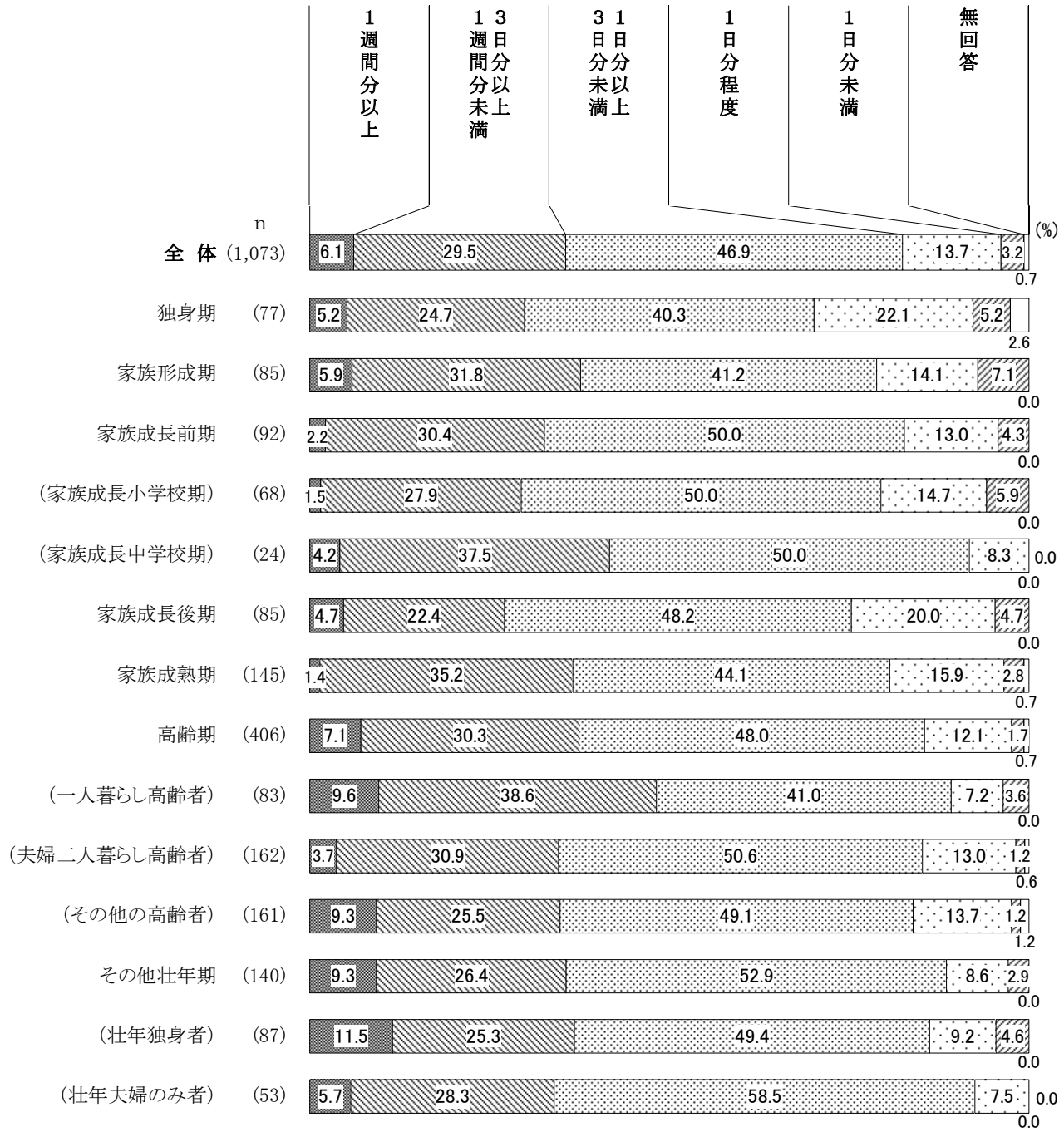
水の備蓄量をライフステージ別でみると、すべてのライフステージで、「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

図２－３－３－①　ライフステージ別／備蓄量／水



食料の備蓄量をライフステージ別でみると、いずれのステージでも、「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」より高くなっている。

図２－３－３－②　ライフステージ別／備蓄量／食料

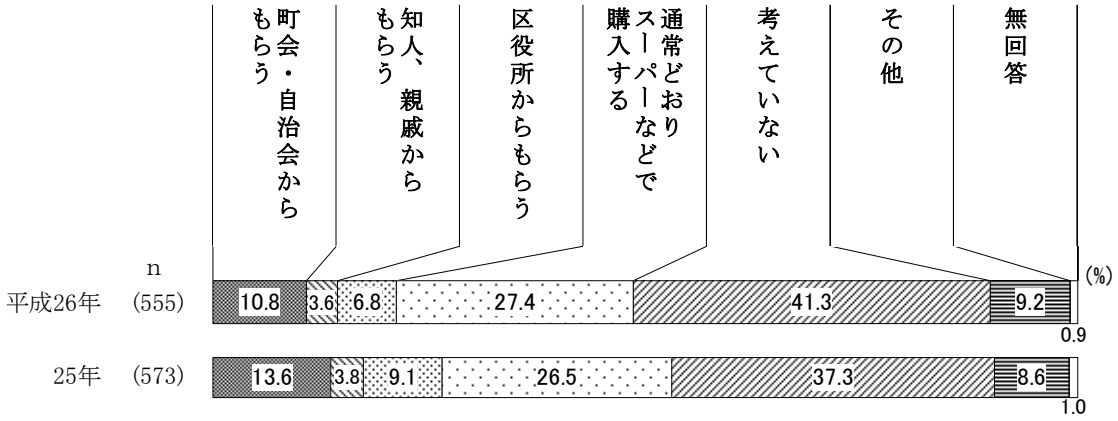


（４）災害発生時の水や食料の確保

■　「通常どおりスーパーなどで購入する」が２割台半ばも、「考えていない」が４割強

問６は、問５で「３．特に用意していない」とお答えの方におうかがいいたします 問６　災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか。 （○は１つだけ）

図２－４－１　前回調査比較／災害発生時の水や食料の確保



備蓄や買い置きを「特に用意していない」という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が27.4％で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」（10.8％）となっている。一方、「考えていない」が41.3％と４割を超えている。

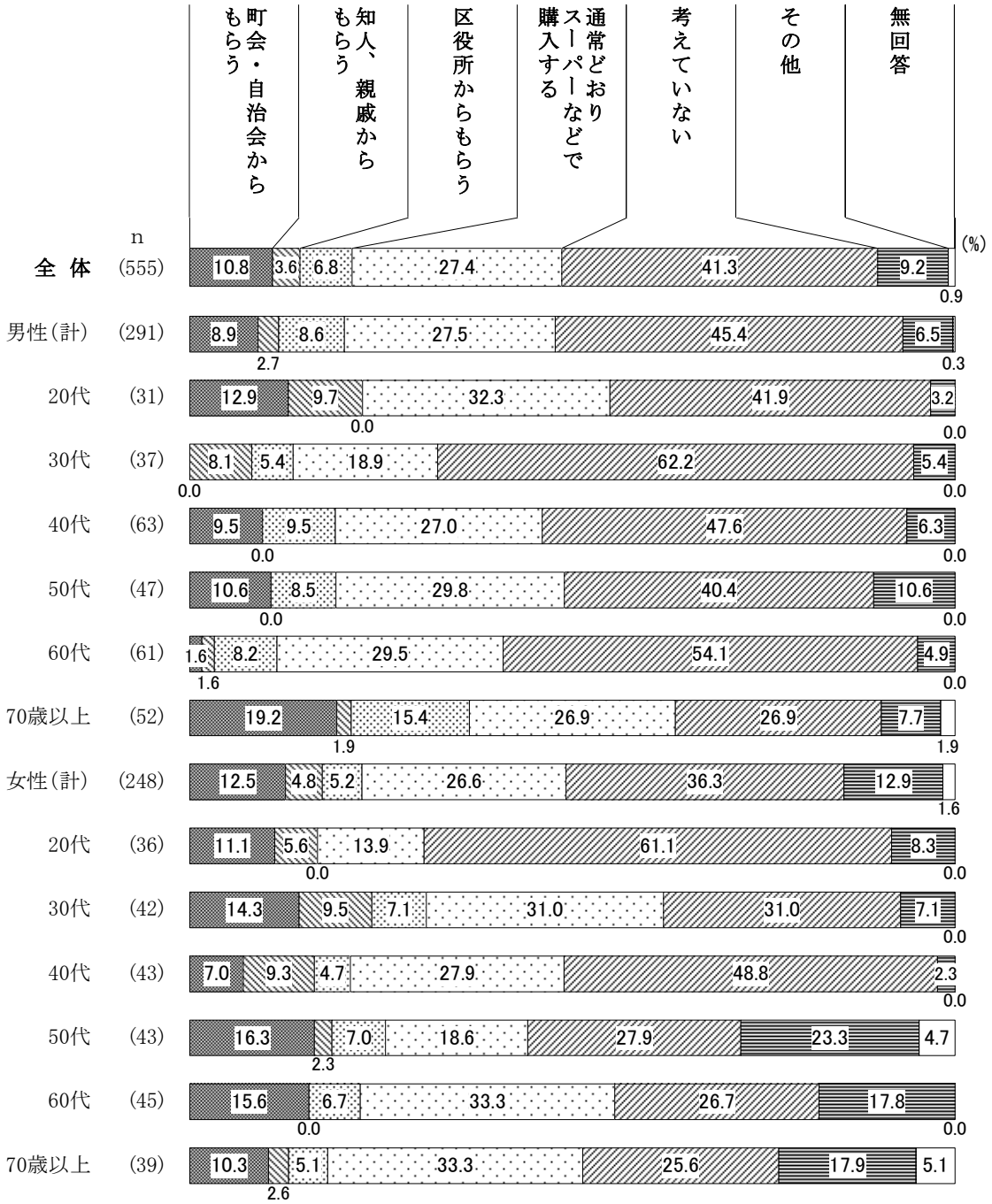
前回結果と比較すると、「考えていない」が37.3％から41.3％と、微増している。

性別でみると、男性では「考えていない」が45.4％と、女性（36.3％）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、30代、60代では「考えていない」が５割を超えている。70歳以上では「町会・自治会からもらう」が19.2％と、他の年代より高くなっている。また、30代を除くと、いずれの年代でも「通常どおりスーパーなどで購入する」が２割台半ばを超えている。

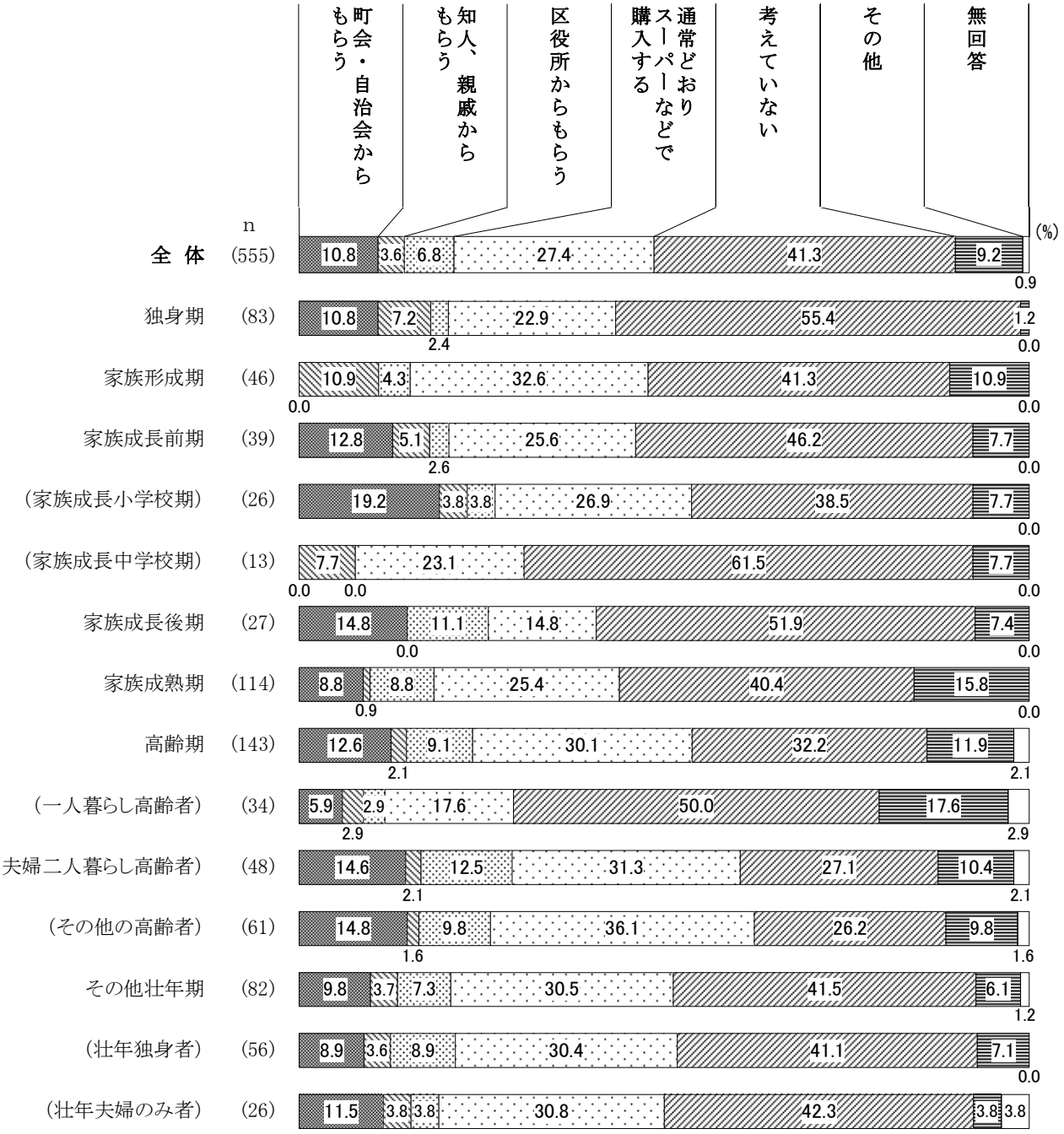
女性の場合、20代では「考えていない」が61.1％と、他の年代より高くなっている。一方、30代、40代、60代、70歳以上では「通常どおりスーパーなどで購入する」が３割前後と、他の年代より高くなっている。

図２－４－２　性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ライフステージ別でみると、独身期、家族成長中学校期、家族成長後期、一人暮らし高齢者では「考えていない」が５割以上と高くなっている。家族形成期、高齢期、夫婦二人暮らし高齢者、その他の高齢者、壮年独身者、壮年夫婦のみ者では「通常どおりスーパーなどで購入する」が３割を超え、他のステージより高くなっている。家族成長小学校期では、「町会・自治会からもらう」が19.2%と、他のステージより高くなっている。

図２－４－３　ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



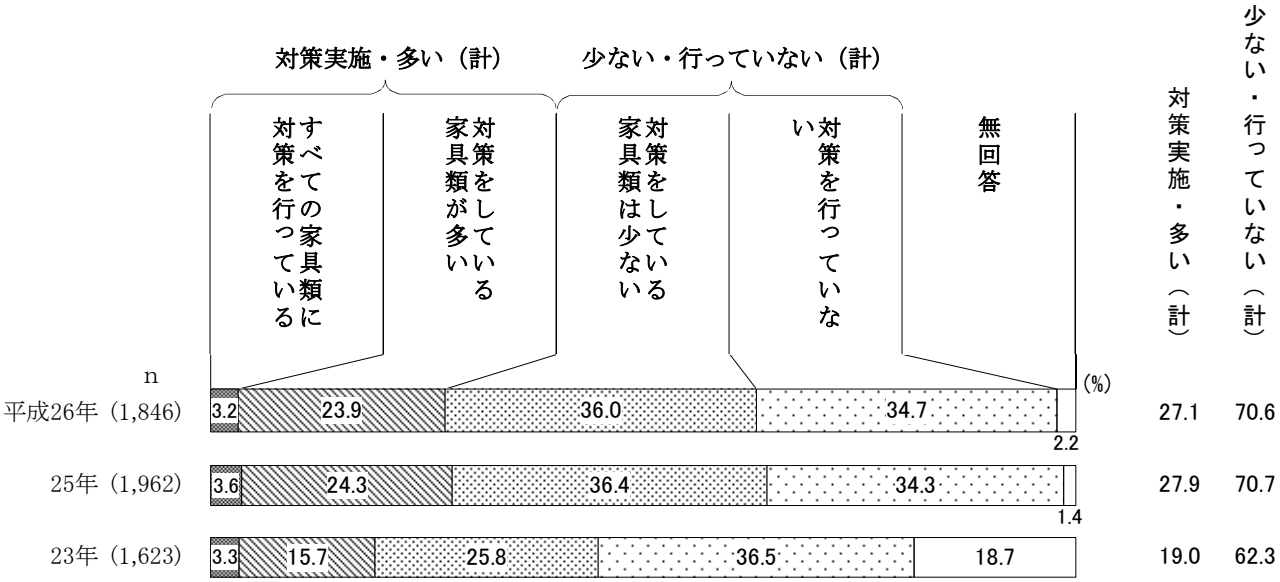
（５）家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしていない方が約７割

問７　あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか。（○は１つだけ）

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図２－５－１　経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.2％で、これに「対策をしている家具類が多い」の23.9％を合わせた【対策実施・多い】が27.1％となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は36.0％、「対策を行っていない」は34.7％となっている。

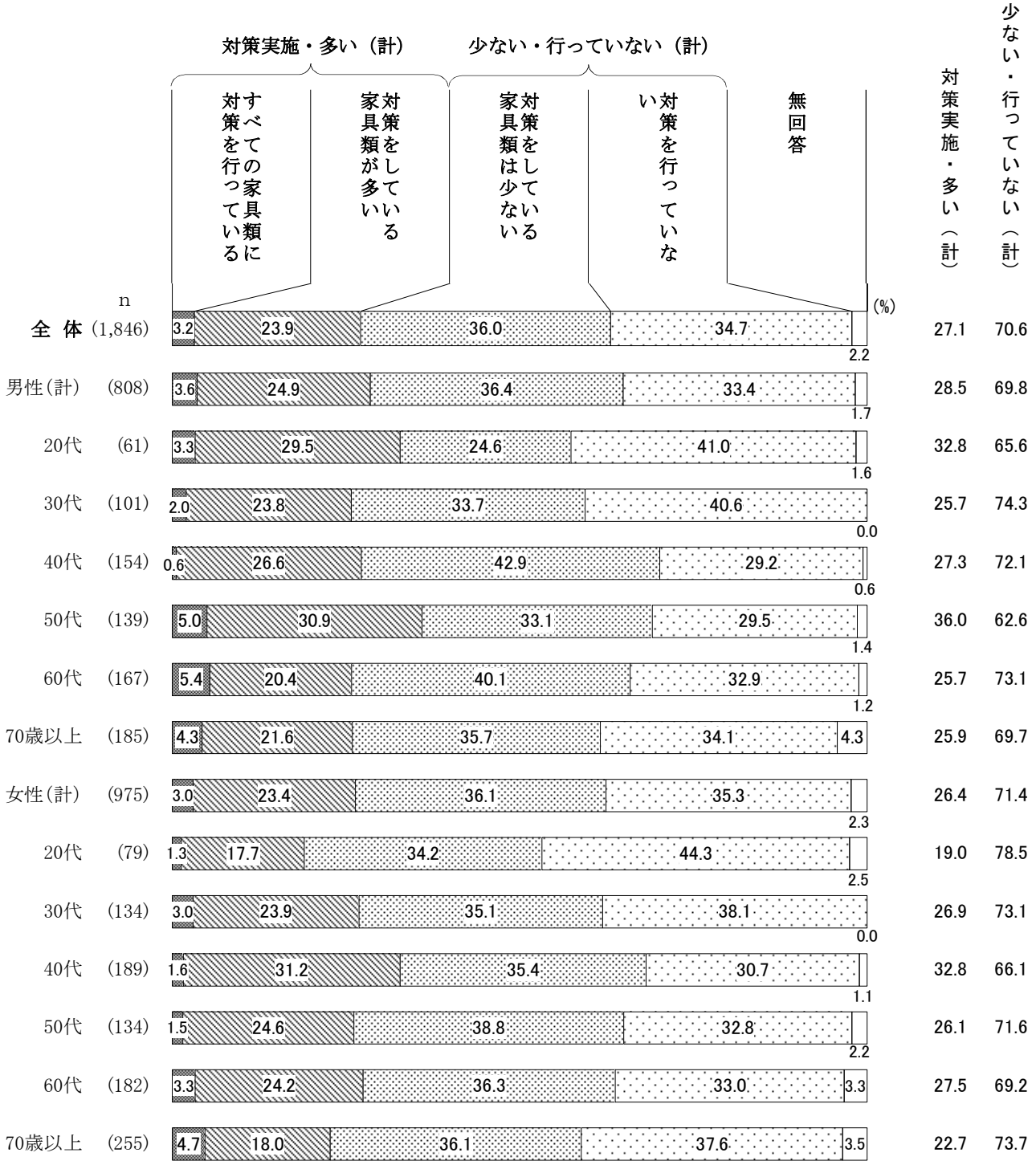
平成25年度調査と比較すると、【対策実施・多い】は27.9％から27.1％で、ほぼ横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】も、70.7％から70.6％で、ほぼ横ばいとなっている。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、20代、50代では【対策実施・多い】が、それぞれ32.8%、36.0%と、高くなっている。

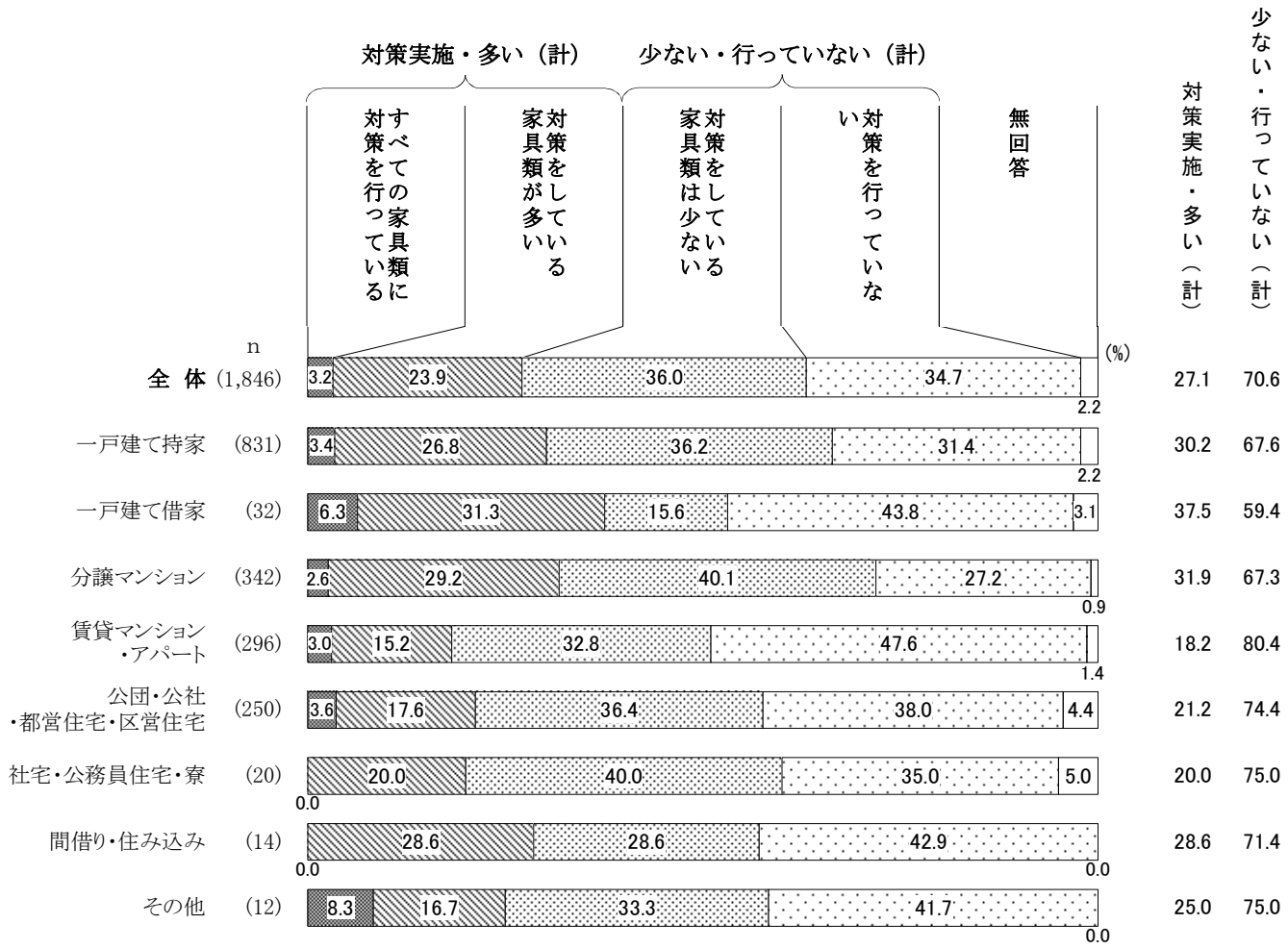
女性の場合、40代で【対策実施・多い】が32.8%と、他の年代より高くなっている。

図２－５－２　性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、分譲マンションでは【対策実施・多い】が、いずれも３割を超えて他の住居形態よりやや高くなっている。

図２－５－３　住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



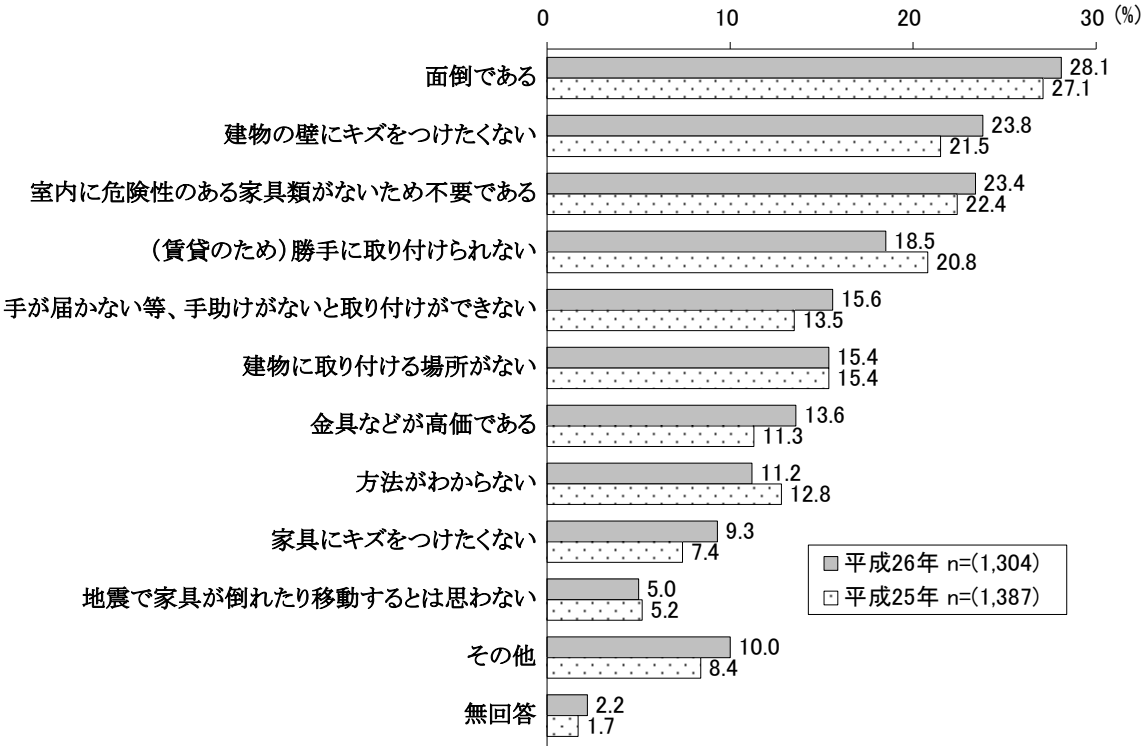
（６）対策をしていない理由

■　“面倒”“キズをつけたくない”“不要”が２割台

問７で「３．対策をしている家具類は少ない」、または「４．対策を行っていない」とお答えの方へ

問７―１　どのような理由からですか。（○はあてはまるものすべて）

図２－６－１　前回調査比較／対策をしていない理由

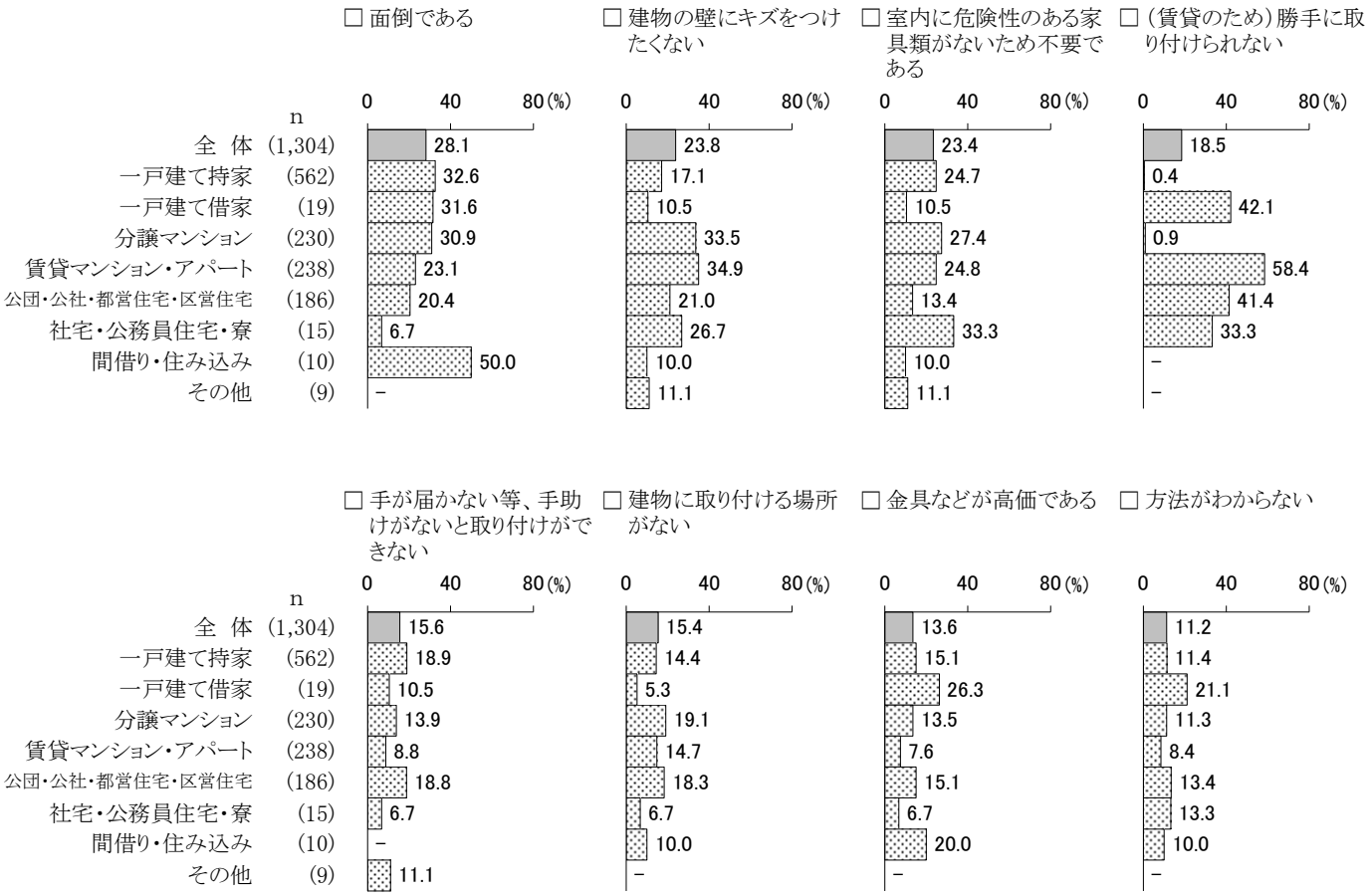


【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が28.1％で最も高く、以下「建物の壁にキズをつけたくない」（23.8％）、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」（23.4％）、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（18.5％）の順となっている。

前回結果と比較すると、上位３項目はそれぞれ微増している。

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、分譲マンションでは、「面倒である」がいずれも３割を超えている。一方、賃貸マンション・アパートでは、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」が58.4％と６割近くを占めているほか、「建物の壁にキズをつけたくない」も34.9％と高くなっている。

図２－６－２　住居形態別／対策をしていない理由／上位８項目



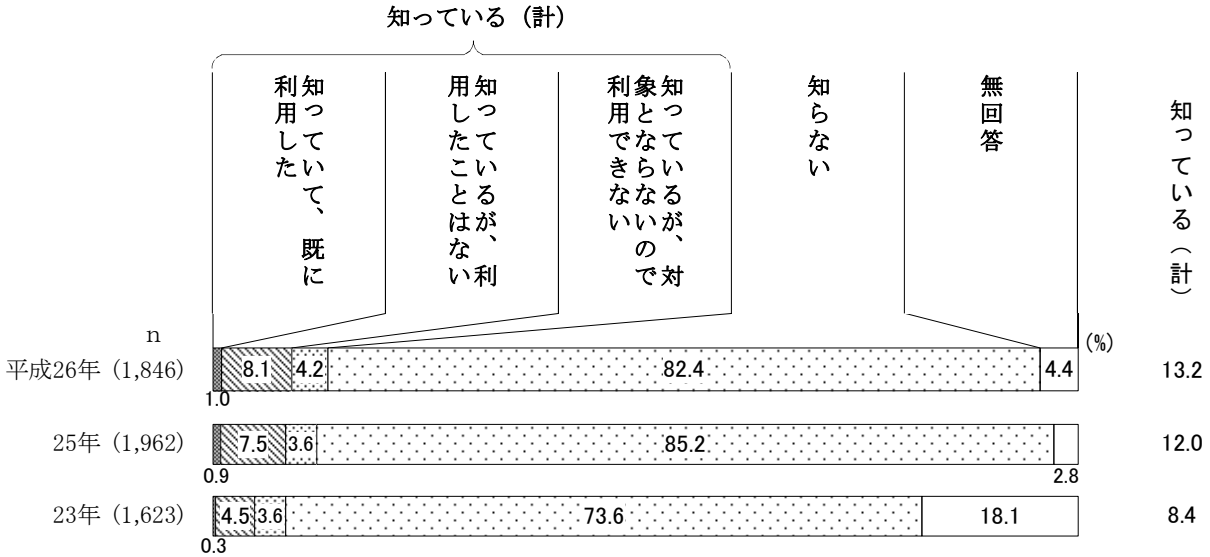
（７）家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

■ 「知らない」は８割以上

問８　足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、３万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか。（○は１つだけ）

※ 助成の対象者　①６０歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

図２－７－１　経年比較／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

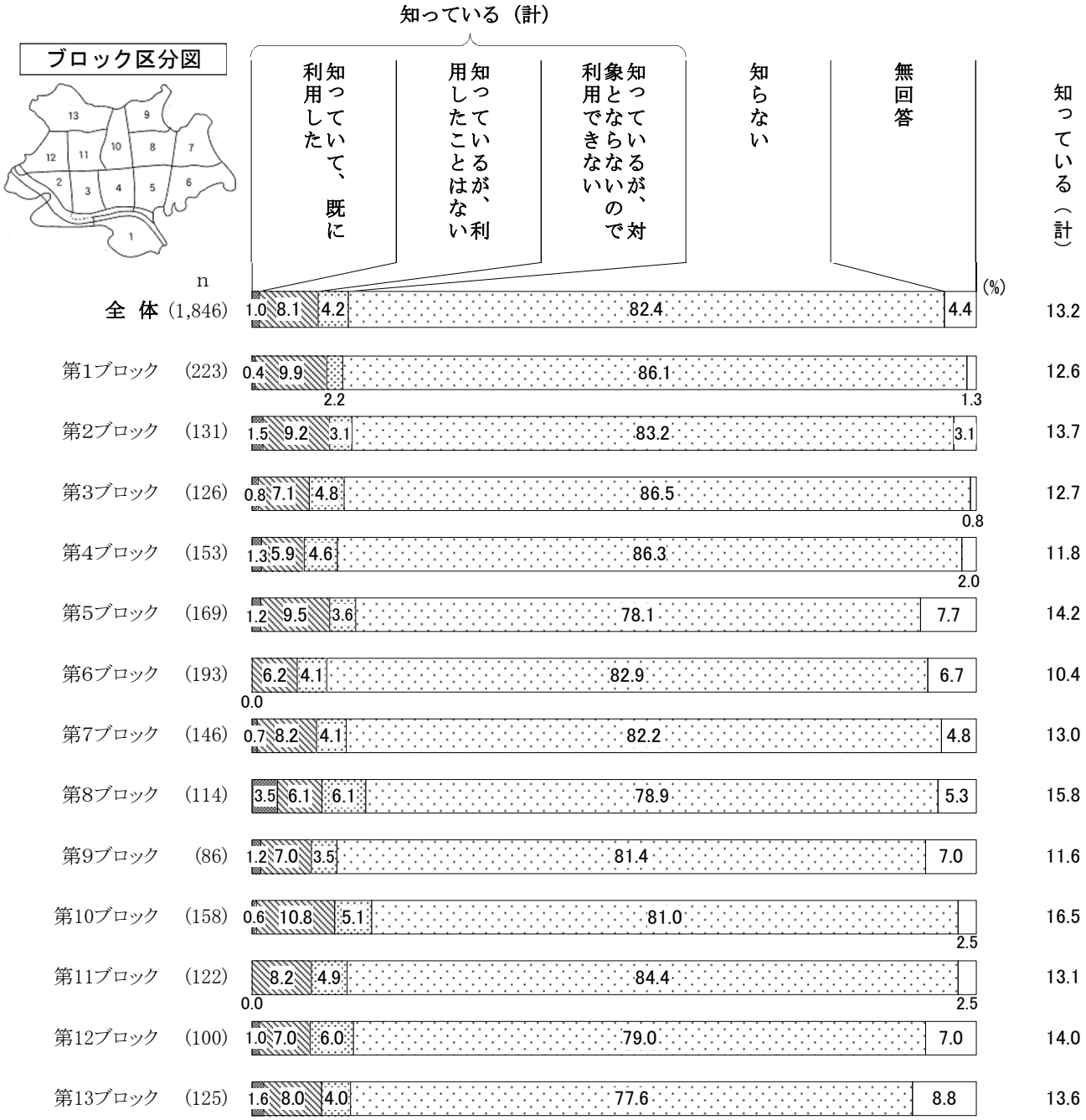


家具転倒防止器具取付、ブロック塀倒壊防止、窓ガラス飛散防止の工事についての費用助成制度について、「知っていて、既に利用した」は1.0％で、これに「知っているが、利用したことはない」（8.1％）、「知っているが、対象とならないので利用できない」（4.2％）を合わせた【知っている】は13.2％となっている。

平成25年度調査と比較すると、【知っている】は12.0％から13.2％へと1.2ポイント微増している。また、「知らない」は85.2％から82.4％と2.8ポイント微減している。

地域ブロック別でみると、第８ブロック、第10ブロックでは、【知っている】はそれぞれ15.8%、16.5%と、他のブロックに比べてやや高くなっている。

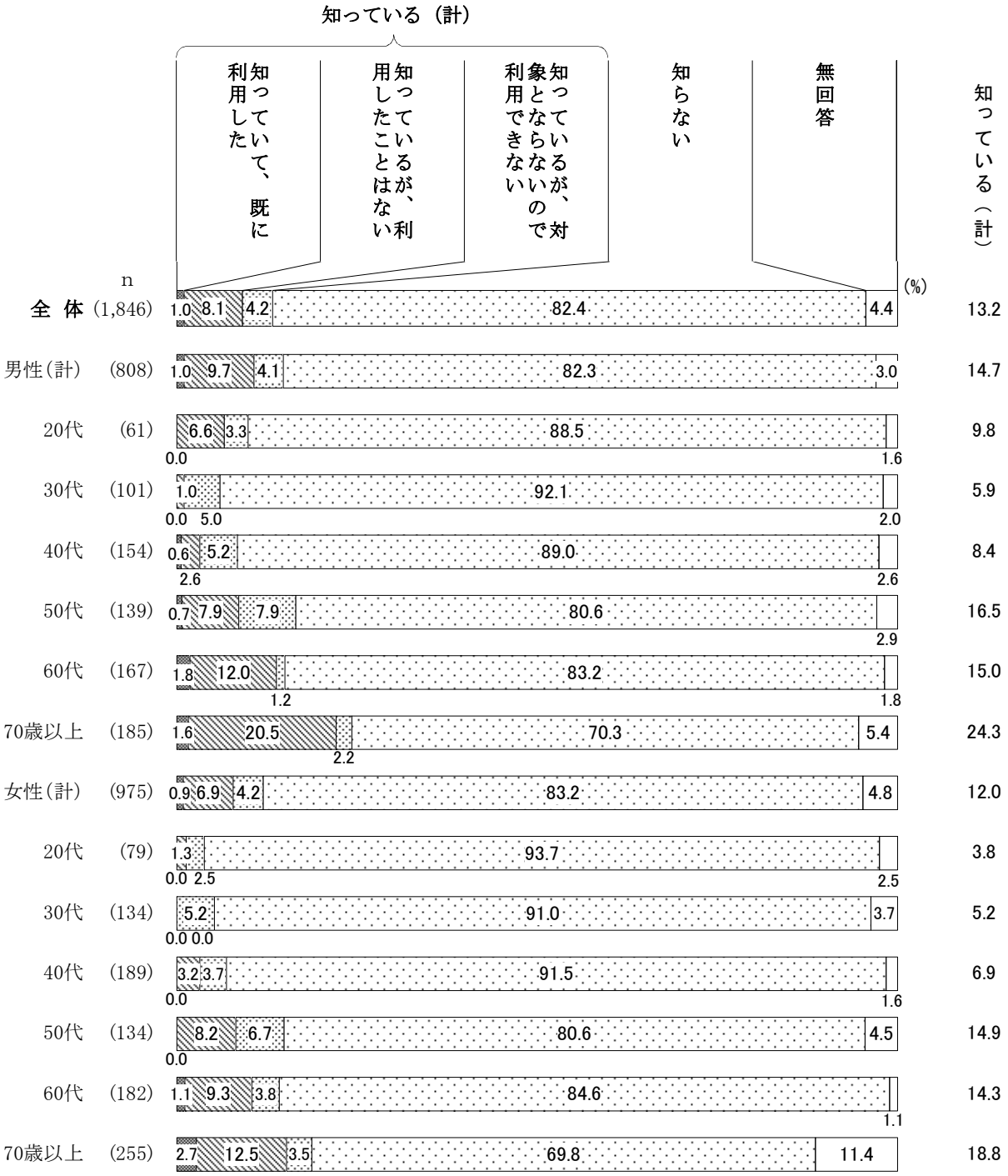
図２－７－２　地域ブロック別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



性別でみると、【知っている】は、男性14.7％、女性12.0％となっている。

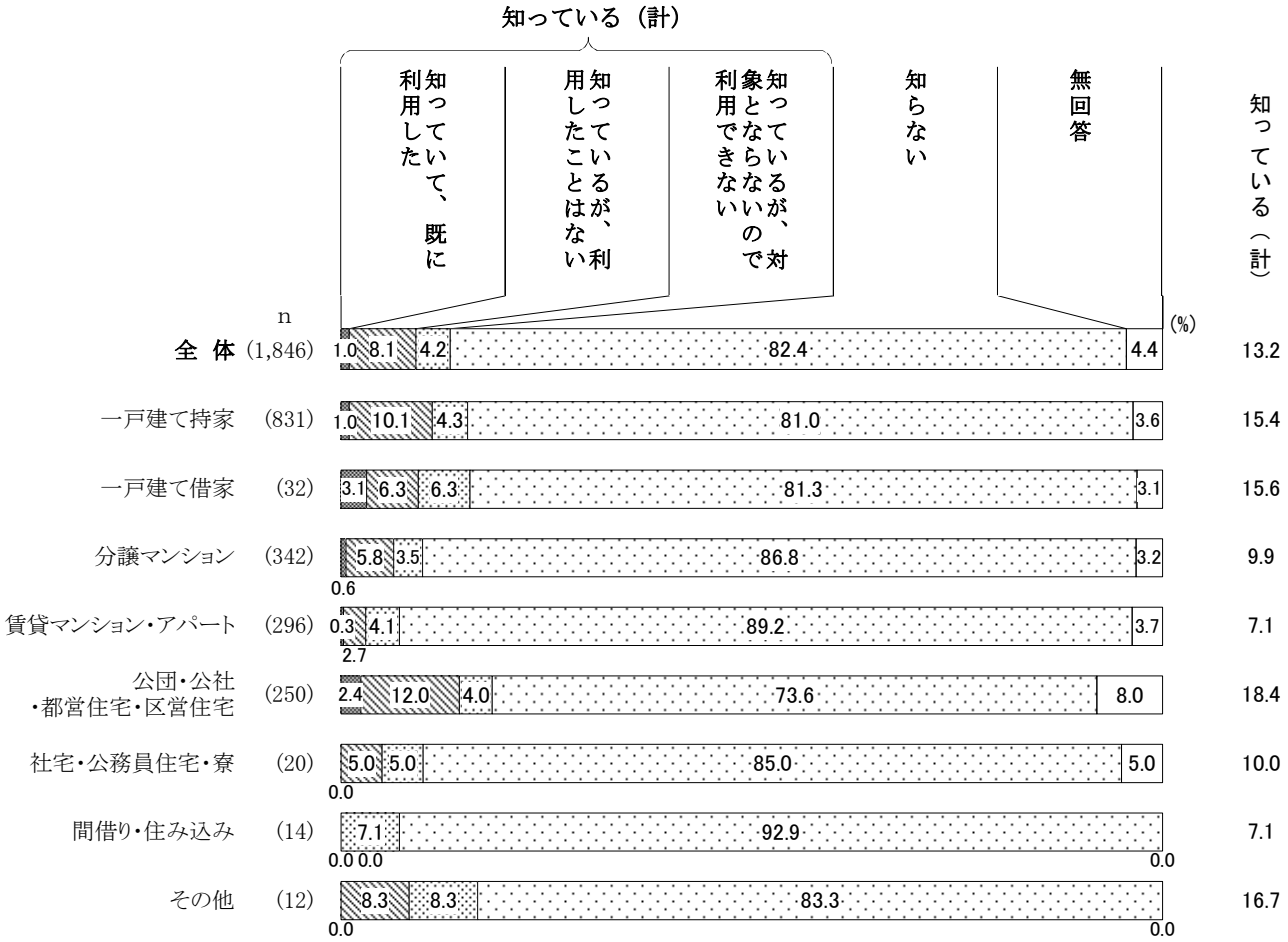
性・年代別でみると、【知っている】は、男女とも若年層では低く加齢とともに増加し、男性の70歳以上では24.3％となっている。

図２－７－３　性別、性・年代別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、公団・公社・都営住宅・区営住宅では【知っている】が、いずれも１割台半ばを超えて、他の住居形態より高くなっている。

図２－７－４　住居形態別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

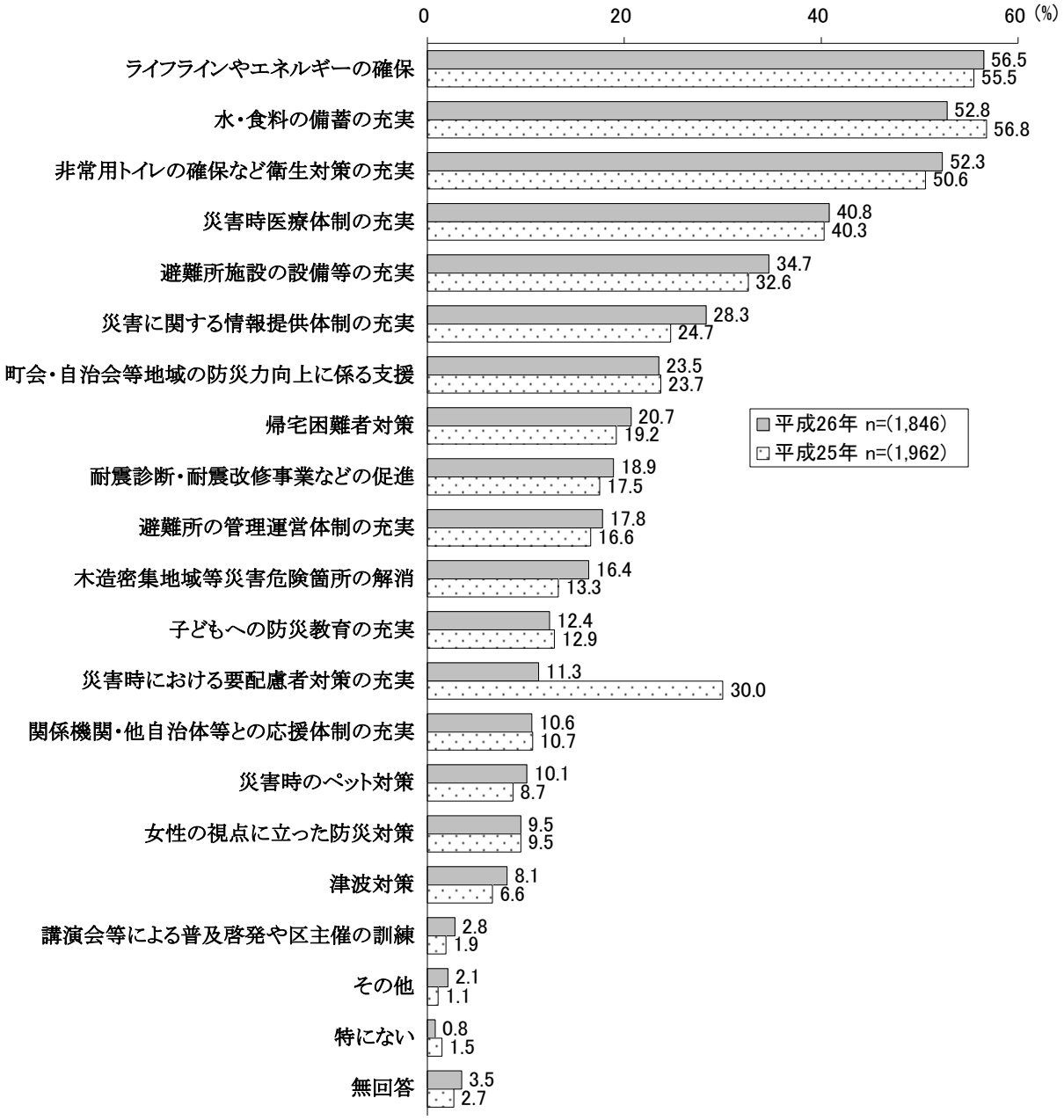


（８）大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “ライフラインやエネルギーの確保”“備蓄の充実”“衛生対策の充実”が５割台

問９　あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。（○は５つまで）

図２－８－１　前回調査比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※「水・食料の備蓄の充実」は、25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。
※「災害時における要配慮者対策の充実」は、25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「ライフラインやエネルギーの確保」が56.5％と最も高く、以下「水・食料の備蓄の充実」（52.8％）、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（52.3％）の順となっている。

前回結果と比較すると、微増している項目が多いなか、「水・食料の備蓄の充実」は56.8%から52.8%と、微減している。

なお、選択肢表記に違いがあり参考に過ぎないが、「災害時における要配慮者対策の充実」が前回から大幅減となっている。

性別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」については、男性48.5%、女性55.8%と女性で7.3ポイント高くなっている。

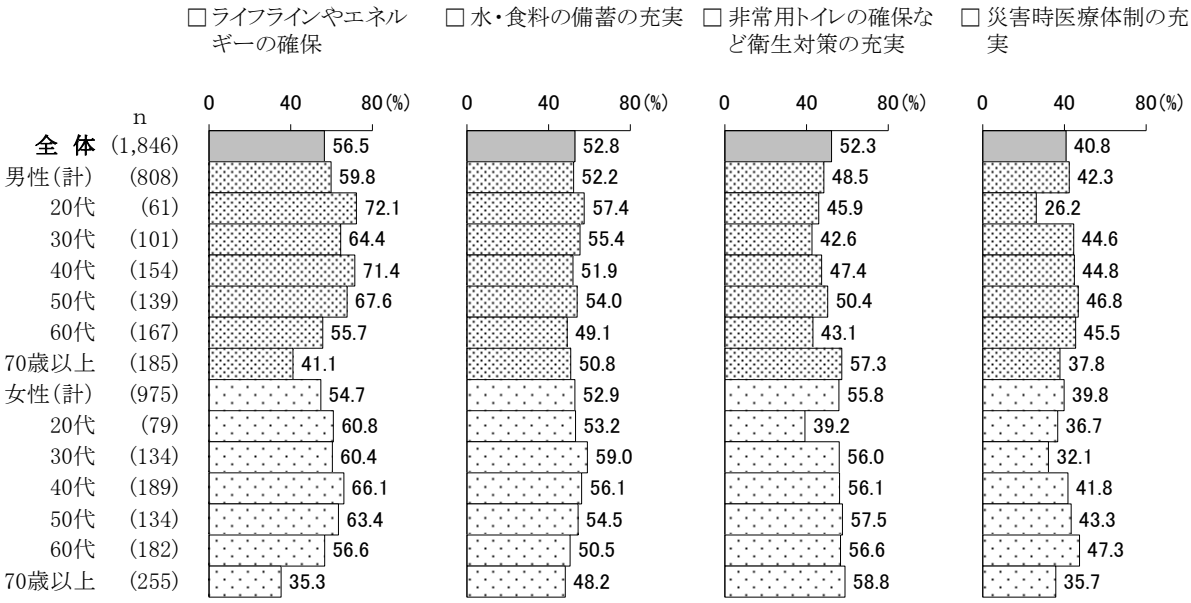
性・年代別でみると、「ライフラインやエネルギーの確保」については、男性では、20代、40代でそれぞれ72.1%、71.4%と、他の年代よりも高くなっている。

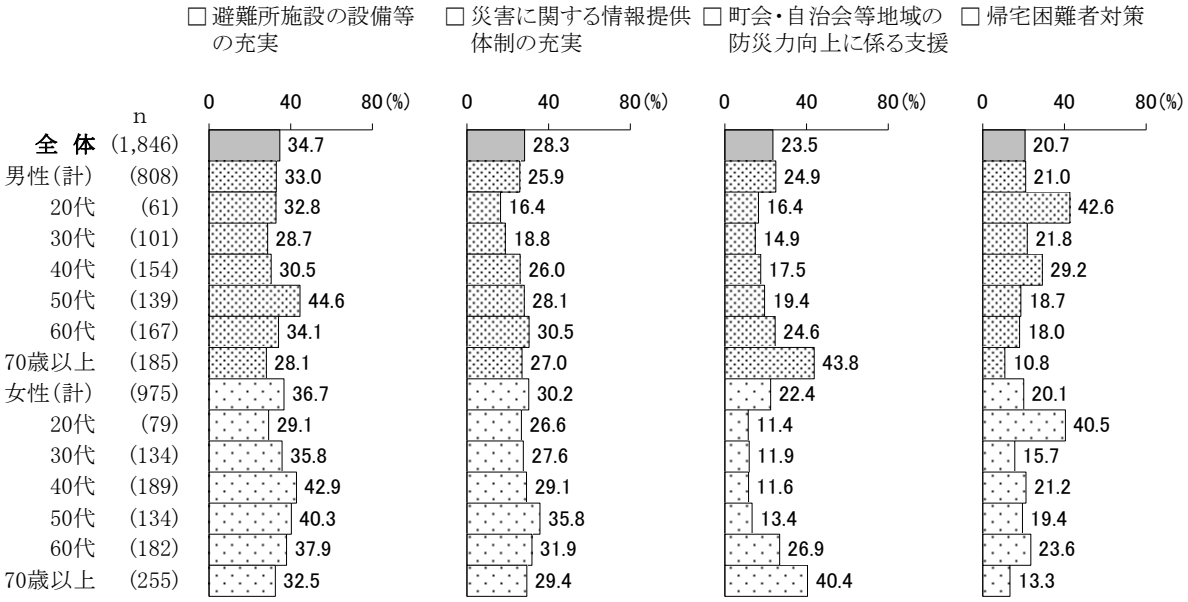
女性では、60代以上を除くと、いずれの年代でも６割を超えている。

また、「避難所施設の設備等の充実」では、男性の50代、女性の40代、50代で４割を超え、他の年代より高くなっている。

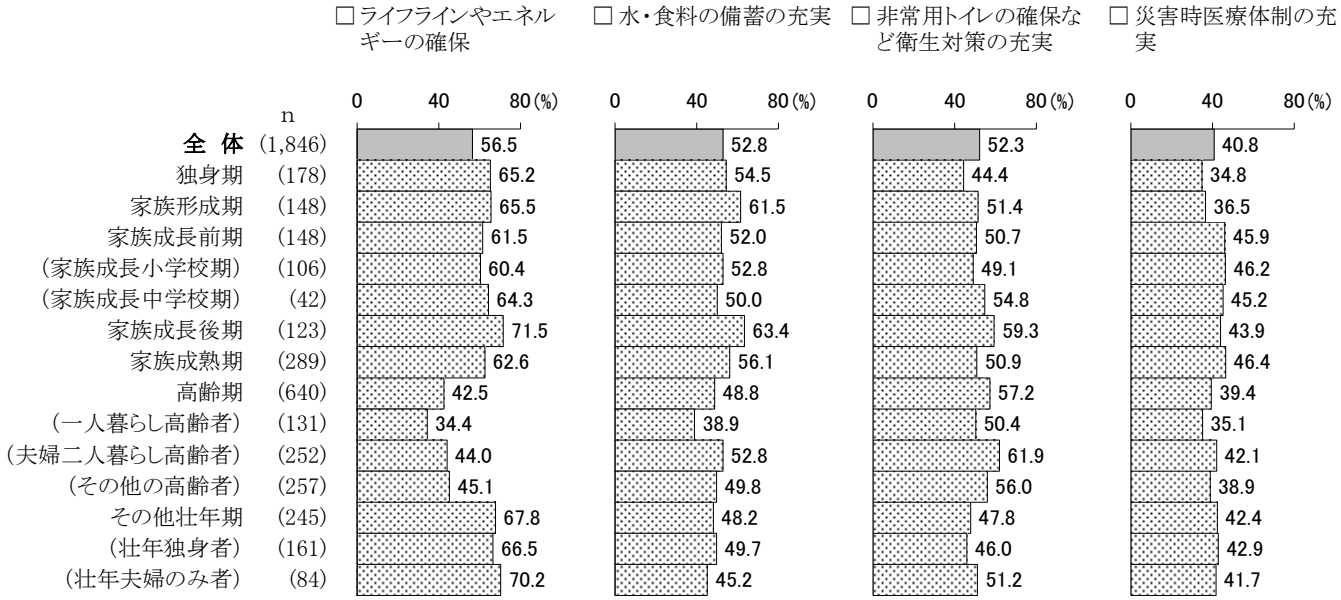
図２－８－２　性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位８項目





ライフステージ別でみると、「水・食料の備蓄の充実」は、家族形成期、家族成長後期で６割を超えて高くなっている。また、「ライフラインやエネルギーの確保」は、家族成長後期で71.5％と、他のステージより高くなっている。

図２－８－３　ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位８項目